

【事例紹介05: 匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所】

千葉県匝瑳市

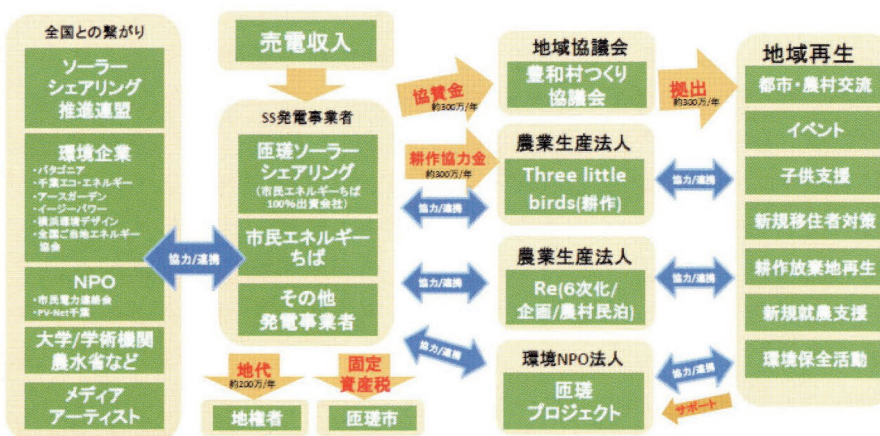
●ソーラーシェアリングから始まる新しい農業と村づくり

* 設置者：匝瑳ソーラーシェアリング合同会社 * 発電出力：1.2 MW (メガワット容量)



2017年3月末、千葉県匝瑳市飯塚に「匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所（パネル容量 1.2MW）」が誕生した。「匝瑳ソーラーシェアリング合同会社」（弊社100%出資子会社）が SPC（特別目的会社）的な役割となり、複数企業からの出資、社債発行、金融機関からの融資（プロジェクトファイナンス）という事業スキームとなっている。

きっかけは2014年9月、同地域に初めてのソーラーシェアリング「匝瑳第一市民発電所（パネル容量 35kW）」をつくったこと。たった1つの小さな発電所に過ぎなかったが、その存在が呼び水となり、次第にソーラーシェアリング事業に取り組む人たちが増え、低圧（パワコン出力 50kW未満）のソーラーシェアリング設備が地域のあちこちでできるようになった。メガ設備は弊社が権利を持っていたものの資金的にめどが立たず、半ば夢とあきらめていた。しかし、事業を進めていく中で新たな出会いがあり、城南信金が融資を申し出てくれたことから実現化に向けてにわかに動き出した。その後、関係者の尽力があり急ピッチで事業スキームや細部が固められ、地域の方々の協力のもとついに実現するに至った。



同地域ではソーラーシェアリング事業収益の一部を地域へ還元する2つの大きな取り組みが展開されている。1つは耕作協力金（支援金）の流れ。各発電事業者は設備下を耕作する地元の農業生産法人に耕作協力金としてメガ

で200万円、低圧群合計約100万円（2018年）を支払っている。それによって、耕作だけでは採算が取れなくとも農業が可能となり耕作放棄地の解消につながっている。

2つ目は協賛金の流れ。各発電事業者は環境保全や農業支援、地域振興を目的に「村づくり基金」を拠出（メガ 200万円、低圧群合計約 100万円＝2018年）している。この基金は、地域の代表で構成されている「豊和村づくり協議会」が新規就農支援、移住者対策、子どもたちの育成等、地域のための取り組みに活用し活力あるコミュニティづくりへの一助となっている。

市民エネルギーちば株式会社監査役 宮下朝光